

具体的な毒性評価手法 (概要)

基本的な考え方

魚類、甲殻類、藻類を対象
急性的影響により生態毒性を評価

試験生物

魚類：メダカ (*Oryzias latipes*) またはコイ (*Cyprinus carpio*)
甲殻類：オオミジンコ (*Daphnia magna*)
藻類：緑藻 (*Selenastrum capricornutum*)

試験方法

環境省や農水省で作成の急性毒性試験方法(テストガイドライン)を利用

急性影響濃度の算定方法

- ・不確実係数 (種間差を考慮)

甲殻類 10

魚類 10

藻類 1

〔甲殻類・藻類について、種差が少ない剤であることを証明できる場合等
には「1～10」の範囲で科学的に妥当な値を設定できる。〕

- ・急性影響濃度は、魚類、甲殻類、藻類の急性毒性値を不確実係数で除した値の中で、最も低い値を採用する。